

地域を愛し、自立と共生ができ、未来を創る子ども

直東学園ニュース

直江津東中学校区すこやかネットワークだより

令和4年度 第6号
令和4年11月25日発行
＜発行・編集＞
直東学園 事務局
〒942-0041
新潟県上越市安江 282-1
(上越市立直江津東中学校内)
TEL : 025-543-2729
FAX : 025-543-4150
E-mail : higashi-cs@jorne.or.jp

みんなが幸せになるために

11月7日(月)に、直江津東中学校区4小学校の6年生を対象にした中倉茂樹さんの講演会を、有田小学校の体育館で行いました。中倉さんは、徳島県人権エンタメ集団『友輝』のリーダーを務めておられて、昨年度は6年生と中学生にお話しいただきました。

BLUE HEARTSの「青空」を歌いながら入場し、笑顔で子どもたちに語りかける中倉さん。小学校時代に壮絶ないじめを受けたことや勇気を出して行動したいくつかの出来事をきっかけにいじめがなくなり、素の自分をそのまま受け止めてくれる仲間ができたことなどをお話してくださいました。入場時の明るくユーモアのある中倉さんからは、想像もつかないような過去があることを知った子どもたちは、約1時間の講演を真剣に聞いていました。最後に挙手をして感想を発表した6年生からは、「とてもつらい経験をしているのに、明るく話をされているのがすごいと思った」「お話全部が印象に残った」という感想が発表されました。また、その感想に対して、「つらい話をつらそうに話しても暗くなるだけ」「人権教育はみんなが幸せになるための教育なんだよ」というお話も中倉さんからいただきました。

中倉さんの講演は、6年生一人一人が、それぞれに何かを感じ、人権について考えるきっかけとなったのではないかと思います。残り少ない小学校生活、そして4月からスタートする中学校生活において、6年生が中倉さんのお話を思い出し、「みんなが幸せになるために自分ができること」を自ら考えて行動してくれたらと願っています。

直東学園同和教育部会では、年間を通して次のような活動に取り組んでいます。家庭、地域の皆様にも活動にご協力いただくことがあります。今後ともどうぞよろしく願いいたします。



【直東学園 同和教育部会の取組】

◎ 活動目標

日常生活の中にある差別に気づき、差別をなくすために行動しようとする子どもの育成

◎ 主な取組

- 1 同和教育基底計画(小中9年間を見通した同和教育の実施計画)に基づいた授業実践
- 2 同和教育基底計画の見直し
- 3 各校における同和教育研修会及び現地学習会の実施
- 4 小学校6年生を対象にした人権教育、同和教育講演会の実施
- 5 家庭・地域と連携した人権教育、同和教育講演会等の実施

北諏訪小学校の取組

北諏訪小学校では、9月と11月を『ほかほか月間』と位置付けて様々な取組をしています。

9月の大きな行事は、縦割り班で活動する『ほかほか遠足』でした。ほかほか遠足のねらいが達成できるように、ほかほか集会やメッセージ交換をしました。

① ほかほか集会

縦割り班で簡単なゲームに取り組む中で、どんな言葉や行動が心をほかほかさせるのかを考えました。活動後は、『がんばれ』という声が聞こえてうれしかった』『あとちょっとだよ』や『いいね』などの言葉をたくさん使えてよかった」「これからもほかほかする言葉を増やしたい」等の振り返りがあり、自分や相手の心をほかほかさせる言葉や行動に気付いた様子が見られました。

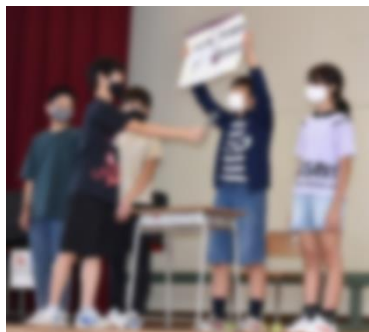
② ほかほかメッセージ交換

遠足後に縦割り班のメンバーにメッセージカードを書き交換する活動を行いました。メッセージを書くことで、班の人が掛けてくれた言葉やしてくれたことに改めて目を向け「ありがとう」や「がんばっていたね」等の言葉を伝えることができました。交換した感想には、「自分のいいところに気付いてくれてうれしかった」等、自己肯定感が高まる様子も感じられました。

11月の大きな行事は『絆集会』です。気持ちを認め合うとともに、温かい言葉掛けがよりよい人間関係をつくることに気付いたり、自己肯定感を高めたりすることをねらいとして取り組みます。



保倉小学校の取組



【集まれ ほめほめ・ふわふわ言葉！】

友達のことをお互いに認め合い、やさしい言葉でやりとりをすることを目指しています。10月の児童集会では、どのような言葉がけが相手を気持ちよくしたり、反対に悲しい気持ちにしたりするかを6年生が劇で示しました。ほめほめ・ふわふわ言葉を使うと、相手ばかりでなく、言った本人も気持ちがよくなるから、学校中が笑顔で一杯になるという内容です。この劇を見た1～5年生は、6年生をお手本にし

て全校で毎日たくさんのほめほめ・ふわふわ言葉を使い、使ったら、ピンクのシールを貼ることにしました。学級で大きな花びらがどんどんできて、それを合わせると大きなコスモスになりました。この取組の後、振り返りシートには「言われるとうれしくて、心があたたかくなりました。」「友達との仲が深まった気がします。」等の感想が書かれていました。



【人権教育、同和教育の授業を積み重ねる】

直江津東中学校区同和教育基底計画に基づいて、人権教育、同和教育の学習を行っています。毎年1回は保護者や地域の皆様に授業の様子を見ていただく機会を設けています。今年は、11月17日でした。参観していただいた後、授業の感想として、保護者や学校運営協議会委員の皆様から、子どもたちにメッセージをいただきました。真剣に考えている姿、良い意見に対するお褒めの言葉をいただき、子どもたちはとても励まされました。今後も「いじめや差別をしない、許さない子」「正しい人権感覚で生活する子」の育成を目指して、このような授業を継続的に行っていきます。

有田小学校の取組

7月に本校の林誠仁教諭を講師として、「人権学習、部落問題学習を実践するために必要なこと」についての研修を全職員で行いました。研修では、多くの資料から見えてくる差別の現実について知り、「差別の現実から深く学ぶ」には、私たち自身の生い立ちや生き方を捉えなおすことが大切だと学びました。授業を行うにあたっては、「被差別者が勇気づけられる授業、差別者が自分の差別心に気付く授業」にすることを考え、実際の資料を用いながら、授業をどう進めていくとよいかについても、発問や板書と絡めながら学びました。

6年生は総合的な学習の時間、社会科等と関連付けながら人権学習や部落問題学習に取り組んでいます。古代から肉食は私たちの命をつなぐ行為でした。しかし、仏教の伝来により「大型動物に対する殺生の禁止」「肉食の禁止」が広がり、肉や革を扱う人々を差別するようになっていきました。そこで、子どもたちと一緒に『シリーズ映像で見る人権の歴史8 ひとと皮革の歴史』を見ることで、差別されてきた人々の技術によって皮革や膠（にかわ）が作られ、グローブ、太鼓、墨、ゼラチン等、様々な製品に生まれ変わり、私たちの生活を支えていることを知るから学習をスタートしました。子どもたちは、差別された人々が受け継いできた技術が私たちの生活を豊かにしてきたことを知り、差別する側の愚かさに気付いていきました。

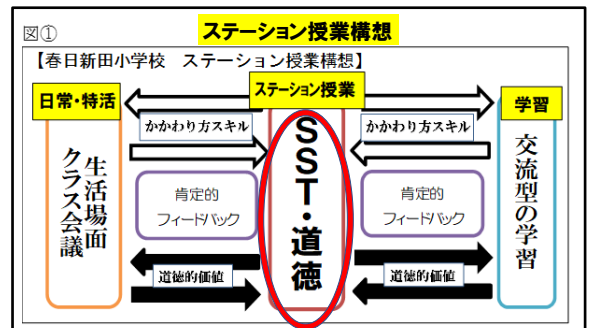


春日新田小学校の取組

当校の重点目標「認め合い進んで学び合う学年・学級づくり」を実現するために、学級づくりを大切にしています。そのため、当校の研究は、「ステーション授業構想」による学級づくりを中心に置いています。そのステーション授業構想の中央に位置するのが、道徳科の学びです（図①）。その学びで培った価値やスキル、態度を、生活や学習指導のなかで日常化、一般化を図っています。

5年生では、1時間の道徳の授業をまとめ、掲示しています。それにより日常生活で必要なときに、子どもが自分を振り返ったり、担任がよさをフィードバックしたりしています。このようにして互いを認め合い、人権を意識した親和的な雰囲気があります。春日新田小学校は、全学級がこうした実践に取り組む、日常において人権教育を進めています。

11月下旬には、人権教育強調旬間を予定しています。その期間中に、全学級が人権教育に関する授業実践を行います。そして、その様子を保護者に学年だよりでお知らせします。また、11月24日には、校内の「いじめ見逃しゼロスクール集会」があります。全校で集まり、いじめについてみんなで考える時間を過ごします。人権を意識した取組が日々の学級づくりや強調旬間で進められています。



直江津東中学校の取組

11月を「いじめ見逃しゼロスクール強調月間」として、生徒会を中心にいじめ見逃しゼロに向けての取組を始めました。10月25日（火）の生徒朝会で、生徒会総務や専門委員会から具体的な計画が示され、次のように実施しました。

生徒会総務「ムービーを視聴し、考える活動」

応援委員会「朝会の終わりに呼び掛け」

体育委員会「球技大会」

音楽委員会「音楽アンケート」

給食委員会「残量調査」

図書、生活、学習、広報、保健委員会

「いじめ見逃しゼロポスター」掲示

生徒会総務や専門委員会では生徒自らが「いじめを許さない心」「他の人へ思いやりをもって接する心」を高めるように工夫しています。

12月には上記の取組を改めて振り返り、いじめについて深く考え、いじめ・差別を許さない思いを共に育てる機会を設けます。

また今年度も「直江津東中学校区同和教育基底計画」に基づき授業を行っています。基底計画の内容をもとに、学年の実態に即した指導計画を検討し合い、各学級で共通実践できる授業を展開しています。

今後の課題は、「いじめ見逃しゼロスクール」の取組や授業で学んだことを日常の生活で生かすことです。人権について高まった気持ちを、毎日の生活場面や行動に生かしていじめや差別をしない、見逃さない学校を目指します。



直江津東中学校 2年生 立志式

令和4年10月20日（木）の6限に2年生を対象に立志式を行いました。

今年度は、前半で総合的な学習の時間で作成した「東中CM」の優秀作品を発表しました。質の高い作品がそろい、小学校6年生にも見てもらいたい作品となりました。

後半では「5年後の私の姿」を発表しました。目標とする姿になるために、一人一人が「今」頑張りたいことを宣言しました。いずれも、これまでの学習の成果を発揮する場となりました。

青少年育成会議会長の熊木敏夫様から立志バッジをいただき、司会の小山颯太さんが「コロナ禍の中、いろいろな制限の中でも私たち2年生は『今、できること』を精いっぱいやりきりたいと思います。また、未来に向かって『元気に明るく』生活していきたいと思います。5年後の自分に期待をしつつ、成長を止めません。今日の『立志』のバッジに誓いたいと思います。」と新たに決意をしてくれました。

